

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	ア 心身ともに健康で、奉仕と協調の精神に富み、豊かな個性と「生きる力」を備えた人間の育成 イ 自主的かつ意欲的に学業や課外活動に取り組み、絶えず学力と品性の向上に努める創造性豊かな人間の育成 ウ 国際化・情報化に対応する語学力、コミュニケーション能力、情報活用能力を備えた人間の育成
(2)現状と課題	多くの生徒が上級学校進学を志望していることから、学校活動の充実と学力の向上を図り、進路志望の達成率を向上させる必要がある。さらに、変化が激しく予測が難しい時代を逞しく生きるために、主体的に課題解決に取り組み、将来設計ができる生徒を育成する必要がある。
(3)重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導) 2 豊かな心を育む(生徒指導) 3 夢の実現を支援する(進路指導) 4 開かれた学校を目指す(外部連携)
(4)結果の公表	学校ホームページで公表する。

学校整理番号	13
学校名	青森県立八戸東高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和3年2月5日(金)
学校関係者評価実施日	令和3年2月8日(月)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	
元本校教員	1名
学識経験者	1名
企業・経済関係者	1名
地域住民代表	1名
保護者代表	1名
	計5名

番号	(5)評価項目	自己評価			学校関係者評価	
		(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10)次年度への課題と改善策
1	(1)基礎・基本の徹底	①指導方法・評価方法の工夫改善 ②学習意欲を高める授業 ③自学習慣の確立 ④言語活動の充実	①全教科で研究授業を行い、事後の合評会では指導や評価方法の改善のための積極的な意見交換を行った。 ②授業アンケートの質問事項を新学習指導要領を反映したものに变更し、年2回実施後、生徒の評価・意見を踏まえ、速やかな授業改善を図った。 ③今年度から、自己指導能力(生きる力)の育成のためにホームルームでの10分間の「朝読書」を実施している。昨年度に引き続き、月曜日を定時退勤日・部活動休養日とし、家庭学習を確保できるよう環境整備を行った。 ④数学の授業で、問題の解き方の手順を数式を使わず言語化することによって生徒の理解を向上することができた事例を職員会議で報告した。	A	(意見) 新型コロナウイルス禍の中、授業時数確保や他の教育活動に工夫しながら取り組んでいることが伺われ評価できる。 (回答) 今年度4月の臨時休業分の授業については、学校行事の日程を整理することで、一定数回復することができた。	・主体的・対話的で深い学び、教科横断型の授業等への理解を深め、生徒が「できる・できた」をより意識した言語活動を促進していく必要がある。 ・そのためにも、研究授業や教科会議、校内研修等の充実により、生徒の能動的な授業の推進やICT機器の活用等を検討し、生徒の学習への興味・関心の向上、基本的知識・技能の確実な習得及び思考力・判断力・表現力の育成のために教員の授業指導力向上を図る。 ・週初めに、自学支援としてその週の授業の内容を教科ごとに一覧表にしたものを配付し、欠席した場合でも家庭学習の参考とすることができ、次年度も継続する。 ・朝読書について生徒から評価してもらったところ、肯定的な意見が多く、次年度も継続して取り組む。
	(2)国際化・情報化に対応する能力の育成	①外国語指導助手の効果的活用 ②ICT機器の活用促進	①外国語指導助手が1年生のコミュニケーションⅠの授業で週1回以上指導した。英検の面談指導も担当し、合格者数の増加に貢献した。 ②ICT機器関連では、新型コロナウイルス感染防止のため全校生徒へのClass導入やZoomでの会議の研究及びGIGAスクールへの対応を行った。	B		
2	(1)基本的な生活習慣の確立	①「掃除・挨拶・5分前」の励行 ②学校行事・特別活動での自己の伸長 ③面談等による生徒理解の充実 ④不登校・問題行動への早期対応	①生徒指導部教員・各部部員・保護者による朝の挨拶運動を行い、自ら挨拶する態度を育成した。 ②コロナ禍により中止となった2年生の修学旅行については、代替行事として盛岡市と青森市への日帰り遠足と球技大会を実施した。 ③クラス担任が生徒面談を年に複数回実施し、生徒の健康状態と生活状況等を把握し、生徒理解を深めた。 ④気になる生徒の情報は、学年会議・校務運営委員会・教育相談委員会で情報共有を図った。欠席がちな生徒には学年・生徒指導部・保健部・管理職が連携し対応したが、不登校傾向の解消に至らなかったケースもみられた。	B	(意見) 学校評価アンケート(後援会・同窓会、保護者)から学校の活動をほめる肯定的に評価されているのは、先生方の今後の励みになると感じる。一方で、「生徒が抱える心身の悩み」、「いじめの未然防止等」に学校は応え・取り組んでいるのに対して、1割位が否定的であるが気になる。相手の思い違い・勝手な言い分ということもあるかもしれないが、アンケートでとどめることなく確認・対応が必要だと思う。 (回答) 問題を抱えている一人一人の生徒に対して、本人及び保護者から十分お話を聞いた上で、必要に応じて生徒相談委員会の開催し対応を協議したり、カウンセラーとの面談等を勧めたりしている。しかし、否定的な意見があることを踏まえ、さらに丁寧な対応を心がけたい。	・基本的な生活習慣の確立・定着をめざし、生徒指導部会議の定例化により学年と生徒指導部が協同し取り組む。 ・いじめの相談件数は少ないが、一方では相談できない生徒の存在が心配される。また、人間関係の不和やトラブル等による不登校傾向の生徒を支援するために、教育相談委員会の回数を増やしスクールカウンセラーとの連携を強化することで心の悩みの適確な把握と解消に向けての組織的・効果的な対応を推進する。 ・地域住民から登下校のマナーについての苦情が来たこともあり、次年度は下校指導を定期的に行い、同時に自転車通学生集会や1年生の安全教室での交通ルールの確認を強化する。 ・新型コロナウイルス感染防止対策のために、生徒の登校前の健康観察を習慣化するともに、校内では、マスクの着用や教室の換気の徹底、前を向いての昼食、三密の防止等に引き続き取り組んで行く。
	(2)安心・安全な学校生活	①いじめの早期発見・未然防止 ②危機管理と緊急時の的確な対応	①いじめアンケートの結果を受けて、組織的な情報収集後、いじめ対策防止委員会を速やかに開催した。適切に対応することで、今年度に把握した全てのいじめを解消できた。ホームルーム活動では、コロナ禍での差別についてグループ討論することで、生徒が差別の防止について主体的に考えることができた。 ②大規模災害により、早期の帰宅が困難な状況を想定し、保護者への生徒の受け渡し訓練を実施した。危機管理マニュアルの見直しを行った。	B		
	(3)部活動の充実	①目標の明確化と計画的指導	①全国高総文祭に、今年度は音楽部が出場し、次年度は書道部、美術部、文芸部が出場予定など、多くの大会で生徒が活躍した。運動部活動の方針、各部の年間活動計画・月間活動計画をホームページに公開し、保護者に周知した。	B		
3	(1)キャリア教育の充実	①3年間を見通した進路指導 ・教育活動全般を通じた意識づけ ・生徒の主体的進路研究の奨励 ・体系的効果的な面接・小論文指導 ・効果的な講習・個別指導の工夫 ・面談指導の徹底(二者、三者、四者) ・望ましい職業観・勤労観の育成 ・難関大・医学科志望者への指導力向上 ②新大学入試制度への対応の研究	①1年生の文理選択指導、2年生の志望理由書指導、3年生の大学出前トーク、表現力向上集中講座等を行い、主体的な進路研究につなげることができた。さらに、2年生で企業訪問を実施し、これにより主体的な進路研究及び職業観・勤労観の育成の充実を図った。 ②共通テスト実施後、各教科担当者にセンター試験との相違点、問われている資質・能力を分析してもらい、効果的な対策について教科会議を開き検討し、校内研修で発表した。	B	(意見) 学校評価アンケートで、「三者面談の内容が生徒側でなく、教員側の立場でしか話していない」、「一部の教員は、生徒に対して真摯に向き合っていない」などの意見があることが気になる。 (回答) 校長から職員に対して、保護者、生徒から信頼されるためには、常に丁寧な対応、言葉遣いをするのが大切であることを伝えていく。	活動等を通して多様な仲間や年代とのコミュニケーションスキルと協力の仕方を学ぶことで人間関係形成能力を、総合的な探究の時間の充実により課題解決能力を、各種体験活動から得られた学びを次に活かす活動によりキャリアプランニング能力を育成する。 ・表現科では外部講師によるワークショップや表現科公演をも含めた多様な学習機会を通して、豊かな創造力と優れたコミュニケーション力を持つ生徒の育成をめざす。
4	(1)保護者・外部への情報提供	①保護者との連携 ②学校HPの充実と迅速な更新	①PTA進路研修会として、本校を過年度に卒業した生徒を持つ保護者を講師に、講演会「進路達成に向けていま親ができること」を実施した。 ②生徒の部活動等での活躍及び新型コロナウイルス感染防止対策について、ホームページに随時掲載した。生徒の活動が紹介された新聞記事を廊下に掲示し、来校者の閲覧に供した。	B	(意見) 今後、学校の正確な情報発信がますます重要になると考える。そのためにも、各種通信、ホームページの充実をより図っていただきたい。 (回答) 今後も、迅速なホームページの更新により、学校の最新の情報を提供できるよう努めていきたい。	・ホームページによる情報提供の充実を望む声が保護者及び学校評議員からあり、次年度はタイムリーな更新を組織的に進める。 ・アンケートや面談で得られた保護者からの意見・要望に対しては、PTA集会等で回答することで、保護者の理解と協力を得る。 ・後援会・同窓会・PTAの参画のもと創立120周年記念事業を実施する。
	(2)地域・関係機関との連携・協働	①外郭団体との円滑な連携 ②ボランティア活動の推進 ③人材活用(地域・卒業生)	①後援会・同窓会・PTAの協力を得て、創立120周年記念事業に向け、常任委員会及び各専門委員会を開催し精力的に準備に取り組んだ。 ②③ボランティア活動及び人材活用については、コロナ禍により、多くの活動が中止となったため限られた活動となった。	B		
(11)総括	進学校としての責務を果たすため、生徒の進路志望の実現をめざし、キャリア教育の年間計画に基づいて生徒により高い進路意識を持たせ、学習意欲を高めるために外郭団体や保護者の協力も得ながら様々な進路指導行事を行ってきた。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、オープンキャンパスをはじめ多くの行事が中止となったが、2年生の企業訪問、3年生の大学出前トーク等を利用し職業観・勤労観の育成及び進路研究の充実を図ることができた。コロナ禍により授業、学校行事にも大きな影響が出たが、学校行事の整理や代替行事の実施により影響をできるだけ小さくするよう努めた。生徒指導面では大きな問題もなく落ち着いているが、様々な悩みを抱え登校できない生徒も複数おり、保護者や外部団体と連携しながら生徒の悩みを受け止め、支援の必要な生徒に寄り添えるようなスキルを身に付けるための研修を実施していく必要がある。本校は、次年度創立百二十周年を迎えるが、地域の伝統校として、地域との連携・協働を図りながら学習指導、生徒指導、進路指導をさらに推進する。					